

「困ったときは日本共産党へ」

いま、コロナ禍と物価高騰の影響を受けて困難を抱える相談が寄せられています。

岸本議員は、自己責任ばかりの今の政治や制度の矛盾などをともに話し合いながら、利用できる制度はないかなど、希望が見えるまでトコトン相談にのっています。



相談して良かった



東つつじヶ丘在住
ひさん

ずっと仕事を続けていましたが体の痛みが辛く仕事を辞めようとした時、今後の生活に不安を感じたので、知人の紹介で相談しました。退職するにあたって利用できる制度がまだあることや先の見通しが立ち、安心していきます。

美容師の私が政治の世界へ

「戦争なんて絶対にするもんじゃない。これからの女性は、手に職をつけて自立すべき」幼いころから聞いてきた母の思いに突き動かされ、美容師として働いていた岸本さん。保育園の父母会活動などにも参加し28年前の阪神淡路大震災の時には、父母会有志で毛布や子供服を現地に送る活動にも加わりました。

市政に大きな関心を持ったのは、保育園の待機児対策が遅れていることや各保育園すべてに園長が配置されていないことでしたが、一番衝撃だったのは故郷の長野県では当たり前に行われてる「中学校給食が調布では実施されていないこと」でした。

市議選への要請を受けた時、真っ先に中学校給食のことを思い出し、「異業種の私だけれど、みんなの声を届け実現するためにがんばろう」と決意に至りました。当選後、岸本さんは特に中学校給食と保育園・学童クラブの待機児対策にこだわって取り上げ続け、多くの市民の皆さんといまの市政に転換させたもとで、中学校給食を実現し、保育園・学童クラブの増設を前進させてきました。

市議1期目には市議会史上初の出産（次女）も経験。自身の子育てや両親の介護経験を活かし、安心して暮らせる調布にしたいと力を尽くしています。

3兄弟の末っ子の私は、物心ついた時から議員として日々奔走する母しか知りません。最近私は母が議員になってから生まれたことを知り、ワーキングマザーの働き方が今よりも厳しい目で見られた時代で、議員として活動していくには大変な努力と苦労があったと思います。

現在、私は第2子の育休に入りましたが、働きながらの育児には様々なハードルがあることを実感しています。

子育て世代やワーキングマザー達がキャリアを積みながら、安心して子供を育てる地域づくりを目指す母をこれからも応援していきます。

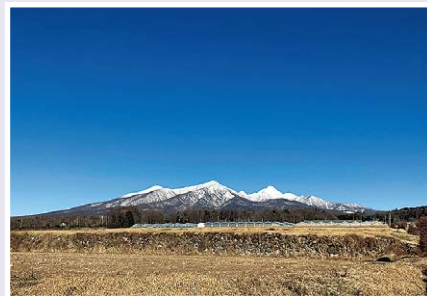
お母さんがんぼつて！
高橋 次女
花南

● プロフィール ●

●1961年長野県出身。県立臼田高校卒業後、窪田理容美容専門学校卒業。美容師として1994年まで都内で勤務。元仙川保育園父母会会長、元滝坂小 PTA 役員。2013年都議選に挑戦。党市議団幹事長、議会運営委員会委員、文教委員会・広域交通問題等特別委員会に所属。

西つつじヶ丘在住。夫と1男2女。好きなもの：沖縄・野辺山、ドライブ、カラオケ、書道

- 岸本事務所：042-442-8751
- メール：n.kishimoto.peace21@gmail.com
- Twitter：@Na7co21



実家から望む
八ヶ岳連峰

日本共産党



市議5期

きしもと

岸本なお子

美容師の私を市議会へ押し上げていただいた時「生活から生まれる声を届けるのが私の役目」と心に決め、多くの方の支えで活動を続けてきました。

コロナや物価高騰で「生活が大変」「お金がなくてこの先どうすればいいのか」「コロナ禍で子どもの成長が心配」など、多くの生活相談が増えています。

私自身も子育てや両親の介護経験を通じて、制度の矛盾や限界を変えなければいけないと痛感してきました。

コロナや物価高から、命と生活を守り、くらしをゆたかにする政治実現のため、今後もがんばります。

学校給食は無償に

大軍拡・増税ストップ

外環道工事は中止

市民といっしょに
政治を変える



日本共産党

調布民報

2023年 冬号外 発行所:調布民報社
調布市国領5-5-2-1-A 042-446-4329
日本共産党調布市委員会の見解をお知らせします

暮らしを支え、市民とともに歩く調布を

日本共産党



きしもと 岸本 なお子

これまで、みなさんとの対話をそのまま市政に届け、実現の道を開くために、市議団とも力を合わせて、粘り強く取り上げ続けてきました

**みなさんとともに
実現しました!**

- ✔ 18歳までの子どもの医療費完全無料化
- ✔ 認可保育園の増設で待機児童解消前進
- ✔ 公共施設に「生活保護の申請は国民の権利」のポスター掲示
- ✔ 学校の普通教室だけでなく体育館にもエアコン設置
- ✔ 国の制度で国保税の「子ども均等割」実現
- ✔ 児童虐待防止センターの直営化
- ✔ 女性の社会進出を応援するマザーズコーナー開設
- ✔ 中学校給食実施をあきらめず取り上げ実現
- ✔ 学童クラブ増設を求め続け、現在42学童クラブに
- ✔ 特養老人ホームの計画的な増設
- ✔ ポケット労働法の配布
- ✔ 学校のトイレに生理用品の設置 (一部で開始)

学校施設の大規模改修は早期に実施を

学校施設は子ども達の学びの場であり、災害時には住民が非難する防災拠点となる場所です。安全な施設でなければなりません。

市内の小中学校は老朽化が進み、市内28校中、築40年以上が27校、築50年以上は半分以上で、築60年以上の学校も1校あります。大規模改善は2004年の八雲台小以来、長友市政のもとでは行われていません。

現在子ども人口が増えると予想されている若葉小・第4中は、施設を一体化する計画が進められていますが、すべての学校を対象に大規模改修は早期に行うべきです。



京王電鉄に清水架道橋改善の要望提出

●柴崎駅周辺のまちづくり
道路整備先行ではなく、お客さんとお店の顔が近い、いまの「柴崎らしさ」を残したまちづくりを、みんなで!

●介護施設の増設を
都用地を活用して特養老人ホームの増設を

●神代団地
高すぎる家賃の値下げ、エレベーターの設置をUR都市再生機構に対し、ストック住宅として整備中の神代団地の「高すぎる家賃引き下げを」団地住民と一緒に、直接要望。

- 清水架道橋の安全対策実施を
- つつじヶ丘周辺に集会室の設置
- 神代出張所機能は早期に駅周辺へ!



12月 URにエレベーター設置を要望

生活をしっかり支える市政を

日本共産党市議団は、市長・教育長あてに「物価高騰対策実施」「コロナ対策強化(第10次)」の緊急要望書を提出してきました。

コロナ禍、物価高騰で市民の暮らしが大変な時こそ、豊かな財政力を生かして市民生活を支えるべきです。給食の無償化に必要なのは市の予算の約1%、補聴器の助成は数百万円からできます。

- 小中学校の給食費の無償化
- 補聴器購入費助成制度の創設
- 高すぎる国保税の値上げストップ



●外環道工事この地域でも!
緑ヶ丘1丁目地域の中央道へのランプトンネル工事開始の動き!

●都営住宅建て替えに伴う「図書館緑ヶ丘分館移転」
広さは約2倍になるものの館内のレイアウトは、住民の意見を活かした図書館に!

●若葉小・四中・図書館若葉分館の施設の一体化
一敷地内に学童クラブ設置を
市民参加で検討中の施設の一体化では、四中敷地内にある既設の学童クラブを理由に学童の新設は予定していません。しかしこの地域は、子どもの数が今後も数年間増えることが予測されており、近隣の住宅街にあるもう一つの学童クラブと住民との課題は解決していません。
長友市政のもと、初の学校施設建て替えの機会を生かして、子どもから大人まで地域住民に愛される学校施設にすべきです。

安全神話の崩れた危険な外環道工事ストップを

2020年夏から工事が始まった調布市内の外環道トンネル、東つつじヶ丘の地上部で道路の陥没・空洞発見という事故が発生。党市議団は国会議員・都議団と何度も現地調査や聞き取りを行い、国交省やネクスコ東日本に交渉をおこなってきました。

現在、事業者は「説明はおこなった」と地盤改良のための工事を強引に進めています。

岸本議員にとって東つつじヶ丘は、自身も子育てをしてきた大事な場所。だからこそ陥没事故発生前から何度も繰り返し議会で住民の声を届け、事業者の姿勢

について告発。市は住民を守る立場を貫くべきだ、情報漏洩問題は徹底究明を、と追及してきました。

国の政策によって、市民生活が脅かされることは許せません。住民の声をそのまま議会に届け改善するまでががんばりです。

